

教科	家庭	科目	家庭総合	開講学期	通年	単位数	4	試験	前期・後期
タイプ	I	レポート数	8	スクーリング必要時数		12	スクーリング実施時数		20

教科書(発行者)	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)
補助教材(発行者)	家庭総合 自立・共生・創造 学習書(NHK出版)

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力をして主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	1 知識及び技能	2 思考、判断、表現等	3 学びに向かう力、人間性等
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

評価の観点及びその趣旨	1 知識・技能	2 思考・判断・表現	3 主体的に学習に取り組む態度
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている。

単位認定	全レポートの合格、スクーリングの必要時数以上の出席及び定期試験合格(30点以上)で単位を認定する。
評価の方法	評価はレポート、スクーリング及び試験により総合的に行う。

学期	レポート	学習内容	スクーリング	試験
前期	第1回	生涯を見通す 人生をつくる	第1・2回	前期
	第2回	子どもと共に育つ 製作実習(手芸等)	第3・4・5回	
	第3回	超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	第6・7回	
	第4回	食生活をつくる 実験実習 前期まとめ ホームプロジェクト	第8・9・10回	
後期	第5回	食生活をつくる 実験実習	第11・12回	後期
	第6回	衣生活をつくる 実験実習	第13・14回	
	第7回	住生活をつくる	第15回	
	第8回	経済生活を営む	第16・17回	
		調理実習	第18・19回	
		これからの生活を創造する／まとめ	第20回	